

ポンプティ 型式：EP-90R1HM

取扱説明書

このたびは本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり正しくご使用ください。お読みになった後はいつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合はお買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や機械に貼られた⚠の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり必ずお守りください。なお⚠の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い求めの販売店にご注文いただき必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や機械に貼られた⚠の表示のあるラベルでは特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

- ⚠危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
- ⚠警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
- ⚠注意…その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

また、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項については、本書に【重要】の表示を用いています。

目次

- ◇安全のために必ずお守りください……①
 - 作業前
 - 農薬・薬液の取り扱い
 - 作業中
 - 作業後と保管
- ◇仕様……③
- ◇ポンプ及び噴口性能表……③
- ◇梱包部品一覧……④
- ◇各部の名称とラベル貼付位置……⑤
- ◇運転を始めるまえに……⑥
- ◇運転……⑧
- ◇整備と長期保管……⑪
- ◇故障と対策……⑬

ASB 株式会社 麻場

本社／〒381-8530 長野市北長池1443-2
TEL：026-244-1317（代）
URL：http://www.asaba-mfg.co.jp

680007480-2008.04

＜安全のために必ずお守りください＞

★作業前



危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
 - ・燃料はエンジンを止めた状態で補給してください。
 - ・燃料補給時は火気に充分注意してください。
 - ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
 - ・燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
 - ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・使用時は燃料がこぼれたり、本機が転倒する恐れがありますので、本機は凸凹のない平らな場所に設置してください。
- ・燃料、薬液を充填後、定置使用する場合や自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。



注意

- ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
 - ・酒気をおびた者
 - ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者
 - ・妊娠中の者
 - ・満15歳未満の者
 - ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等各部に異常がないことを確認してください。
- ・吸水ホース、余水ホースはエンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがなく薬液タンクから飛び出さないよう薬液タンクに固定してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
- ・この製品を他人に貸与または譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。

★農薬・薬液の取り扱い



危険

- ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。
- ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は薬害のない方法で処分してください。

★作業中



警告

- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および停止直後のエンジン（マフラ等）は高温になっています。やけどをする恐れがありますので不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。



注意

- ・薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じまたは気分が少しでも悪くなった場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- ・作業中に噴口部を清掃または交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、吐出ホース先のボールコック及び噴口を閉じ、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせ、エンジンを停止してから行ってください。
- ・ホース類はエンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと耐圧性能が低下します。

★作業後と保管



注意

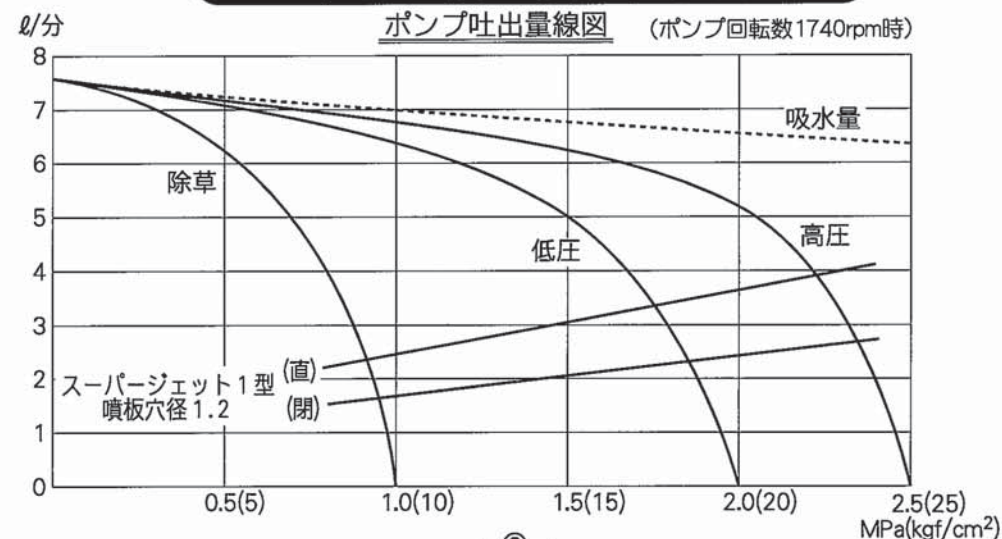
- ・前回使用した薬液が薬液タンク、ホース、噴口等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。
- ・余った薬液、機械の洗浄水及び空容器を洗った水は、河川、水源池、池、沼、下水等に入流して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・エンジンを止めてもポンプ〜ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、吐出ホース先のボールコック及び噴口を開いてポンプ〜ホース内の圧力を抜いてください。
- ・ホース内の残液を空にして巻取機に巻いて保管してください。そのままにして置きますとホースの寿命を短くする原因になります。
- ・作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

＜仕様＞

型 式	EP-90R1HM	
本 機 寸 法	H360×W335×L540mm	
質 量	12.3kg	
ポ ン プ	形 式	対向2連プランジャ式
	ポンプ吸水量	6.6ℓ/min 1740rpm 圧力2MPa
	最高圧力	2.5MPa [25kgf/cm ²]
エ ン ジ ン	燃料タンク容量	0.6ℓ
	使用燃料	混合ガソリン（混合比20～25：1）
	エンジン型式	ロビンEC025GR 空冷2サイクル
	エンジン排気量	24.5cc
	連続定格出力	0.7PS/6000rpm
	最大出力	1.2PS/7000rpm
	点火方式	無接点式マグネット点火
シ	スパークプラグ	NGK BM7A相当
	始動方式	リコイルスタータ

※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

＜ポンプ及び噴口性能表＞



＜梱包部品一覧＞

最初に梱包部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。もし、欠品または破損などありましたら、製品名、型式、製造番号と共に買い求めの販売店にお知らせください。

保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

部 品	数量
プラストライバ	1
プラグレンチ 19	1
ホースより戻し G1/4	1
ボールコック6 G1/4	1
余水ホース (2 m)	1
吸水ホース (2 m)	1
吐出ホース (6mm×50m)	1
接続ホース (0.24 m)	1
サクションフィルタ	1
スーパージェット1型500mm (穴径噴板1.2)	1
ワイヤバンド	1
本体部一式	1
取扱説明書 (本書)	1
保証書 (本書末尾)	1

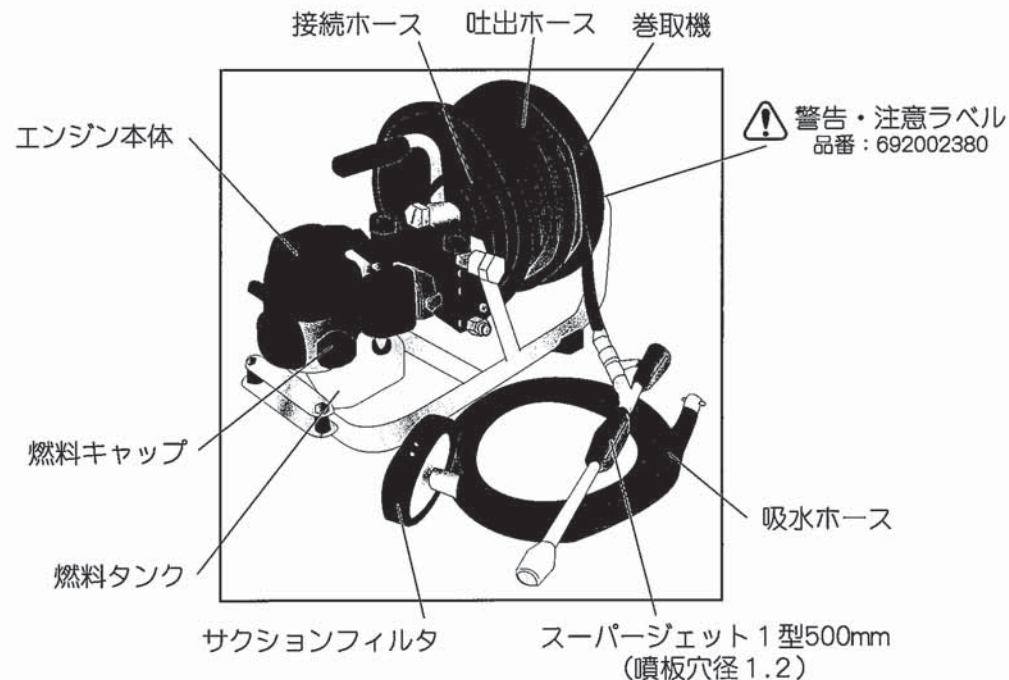
- 注意) ・ボールコック6G1/4、ホースより戻しG1/4は吐出ホースに組み付けてあります。
・吐出ホース(50m)と接続ホース(0.24m)は本機に組み付けてあります。



注意

- ・余水、吸水、吐出ホースとスーパージェット1型は本機専用部品です。他製品で使用した場合、ホースの破裂、噴口の破損等が考えられますので他の製品に使用しないでください。

＜各部の名称とラベル貼付位置＞



警告

- ・農薬の吸引や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・ハウス内では必ず換気を行いながら作業してください。



注意

- ・ご使用前に必ず取扱説明書をよくお読みください。
- ・農薬芸用以外の薬品は使用できません。
- ・農薬の説明書をよくお読みになり正しい希釈倍率で使用してください。
- ・作業中は、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意してください。
- ・作業中、身体に少しでも異常があった場合は直ちに作業を中止し医師の診察を受けてください。

最高圧力 2.5 MPa(25kgf/cm²)

692002380



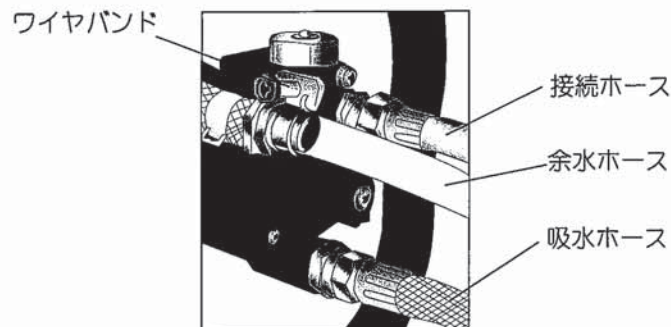
警告・注意ラベル
品番: 692002380

- ・⚠の表示のラベルが汚損したり、はがれた場合は買い求めの販売店にラベル名と品番を注文し新しいラベルに貼り替えてください。
- ・新しいラベルを貼る場合は、汚れをふき取り、乾いた面にして、もとの位置に貼ってください。

＜運転を始めるまえに＞

①部品の取り付け

- 1) 下図のように、吸水ホース、余水ホースを正しく確実に取り付けてください。
接続ホースは既に組み付けてあります。



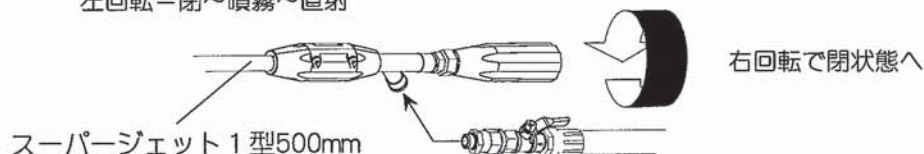
重要

- ・吸水ホースは確実に取り付けないと吸水しません。
- ・吸水ホースには必ずサクションフィルタを取り付けてください。
サクションフィルタを取り付けない場合、ポンプが故障する原因になります。

⚠注意

- ・余水ホースはワイヤバンドで確実に取り付けないと薬液が噴き出します。

- 2) 吐出ホースにはホースより戻しボールコックが組み付けてありますので噴口だけを取り付けてください。
- 3) 本機には標準噴口として、スーパージェット1型（噴板穴径1.2）が付属しています。他の噴口を使用する場合、噴口によっては性能を保証できないものもありますので＜ポンプ及び噴口性能表＞を参照して、スーパージェット1型（噴板穴径1.2）と同等の噴口を選択してください。
- 4) スーパージェット1型の調整は閉～噴霧～直射が手元握りにより連続調節できます。
左回転＝閉～噴霧～直射

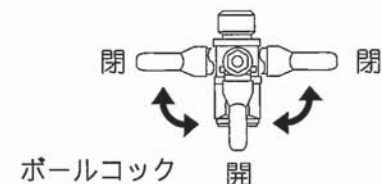


⚠注意

- ・突然の噴霧防止のため作業終了時は、必ず吐出ホース先のボールコックを閉じてください。
- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等各部に異常がないことを確認してください。
- ・吸水ホース、余水ホースはエンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがなく薬液タンクから飛び出さないよう薬液タンクに固定してください。

②ボールコックの取り扱い

レバーの向きにより、開閉を行います。



③薬液の調合、充填

⚠注意

- ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・薬液を入れる前に、必ずエンジンは停止させ、吐出ホース先のボールコック及び噴口は閉じた状態にしてから薬液を入れてください。

④燃料の充填

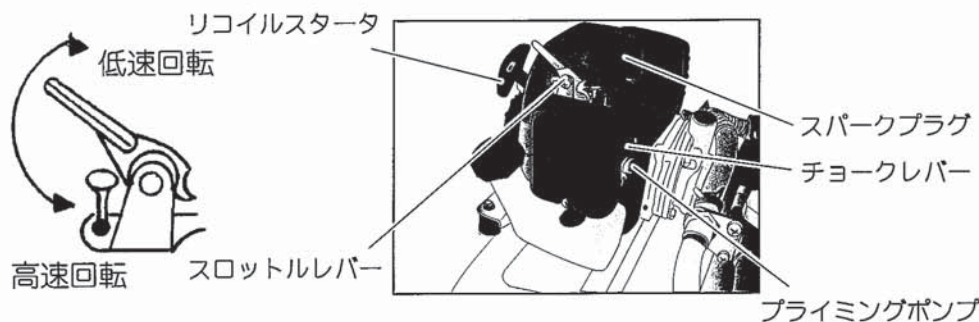
重要

- ・燃料は必ず潤滑油混合ガソリンを使用してください。
- ・混合比は、自動車用無鉛ガソリン25に対して、2サイクルエンジン専用オイル1の割合で混合してください。エンジンの性能を十分に引き出すため、使い初めの20時間前後はオイルを多めに入れて（ガソリン：オイル＝20：1）慣らし運転を行ってください。
- ・燃料の混合は本体の燃料タンクで行わず、必ず別容器を用いてください。

⚠危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
- ・燃料はエンジンを止めた状態で補給してください。
- ・燃料補給時は火気に充分注意してください。
- ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
- ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
- ・燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
- ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・燃料を充填後、定置使用する場合や自動車などで運搬する場合は、燃料がもれる可能性がありますので必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。

＜運 転＞



①始動（エンジンが冷えている場合）

- 1) エンジンストップスイッチをONにします。
- 2) 調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせます。
- 3) スロットルレバーを『閉』の位置に合わせます。
- 4) キャブレタのプライミングポンプを指で4～5回押してキャブレタに燃料を充分に送り込みます。
- 5) エンジンを手で押さえ、リコイルスタータを2～3度軽く引っ張り、混合気をシリンダに吸い込ませます。改めてリコイルスタータを引っ張るとエンジンは始動します。
※) 蓄力式リコイルの為、勢いよく引っ張る必要はありません。
- 6) エンジンが始動したら、直ぐに低速回転側にし1～2分間暖気運転を行ってください。
このとき様子を見ながらチョークレバーを徐々に開いて行きます。暖気運転が終了したら、チョークレバーが『全開』になっている事を確認します。

②再始動（エンジンが暖まっている場合）

- 1) 運転停止直後に再始動するときはチョークレバーを『全開』にして始動します。
始動しない場合はエンジンが冷えている場合の始動法を始めてから行ってください。

重要

- ・リコイルスタータのロープは、一杯に引ききらないでください。
- ・引いたロープを手離さないで、静かにもとに戻してください。

注意

- ・防除作業以外の時は液漏れや、突然の噴霧防止のためボールコックは必ず閉じた状態にしてください。始動前には必ず確認してください。

③散布作業

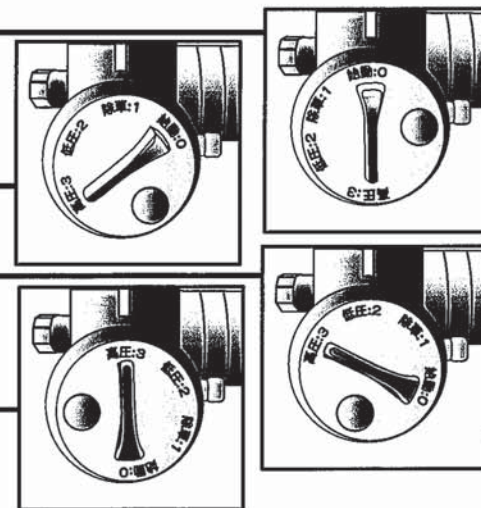
- 1) 調圧弁ダイヤルは『始動：0』、『除草：1』、『低压：2』、『高压：3』の位置で『カチッ』と止まります。次の図表を参照し、作業条件に合わせて設定してください。
- 2) 始動した本機のスロットルレバーを高速回転側に回し、エンジン回転が安定する位置にスロットルレバーを止めてください。
- 3) ボールコック及び噴口を開いて散布作業に入ります。

始動：0
圧力 0MPa {0kgf/cm²}
エンジン始動、または吸入開始時

除草：1
圧力 約1.0MPa {10kgf/cm²}
除草剤等の低压噴霧時

低压：2
圧力 約2.0MPa {20kgf/cm²}
通常噴霧時

高压：3
圧力 約2.5MPa {25kgf/cm²}
特に高压を必要とする時



*『高压：3』は、定置運転で100m程度のホースを使用するとき等にご使用ください。

この時のホースによる圧力損失は内径φ8.5ホースを使用した場合0.5MPa（5kgf/cm²）前後です。

*上記圧力はレバーコックを閉じた状態での圧力です。噴霧時の圧力は使用する噴口の吐出量によって変化しますので、ポンプ性能表を参照してください。

重要

- ・遠心クラッチを使用しています。クラッチが滑るような低速回転での使用は避けてください。（クラッチが滑ると、薬液の吐出が不安定になります。）
- ・作業中に噴霧を一時停止させる時は、噴口を閉じ、スロットルレバーを低速回転側に戻してポンプを停止してください。燃料の節約、エンジン、ポンプの耐久性向上に役立ちます。

警告

- ・農業の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および停止直後のエンジン（マフラ等）は高温になっています。やけどをする恐れがありますので不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。

注意

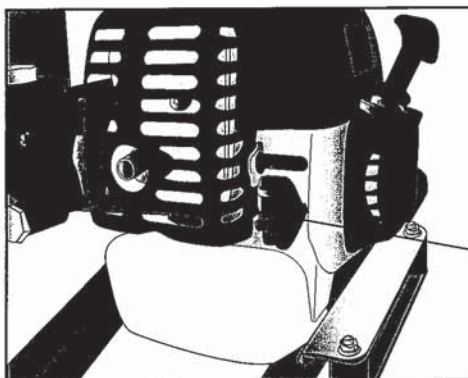
- ・作業中に噴口部を清掃または交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、吐出ホース先のボールコック及び噴口を閉じ、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせて、エンジンを停止してから行ってください。
- ・薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じまたは気分が少しでも悪くなった場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- ・ホース類はエンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと耐圧性能が低下します。

④停止

- 1) ボールコック及び噴口を閉じます。
- 2) スロットルレバーを低速回転側に戻します。
- 3) 調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせます。
- 4) エンジンストップスイッチをOFFにしてエンジンを止めます。

重要

- ・使用中に薬液が無くなったときは、速やかにスロットルレバーを低速回転側に戻しエンジンを停止してください。
- ・ポンプの空運転は故障の原因になります。作業中、整備点検中を問わずに、30秒以上は行わないでください。



エンジンストップスイッチ

⑤使用後のお手入れと保管

- 1) 薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して噴口より吐出させ、ポンプ、ホース、及び噴口内部を洗浄します。清水が吐出しなくなったら速やかにエンジンを停止させて、燃料コックを閉じてください。

⚠注意

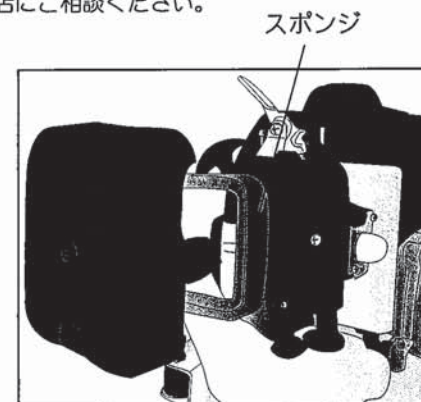
- ・前回使用した薬液が薬液タンク、ホース、噴口等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。
- ・ホース内の残液を空にし巻取機に巻いて保管してください。そのままにしておきますとホースの寿命を短くする原因になります。
- ・余った薬液、機械の洗浄水及び空容器を洗った水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・エンジンを止めてもポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、吐出ホース先のボールコック及び噴口を開いてポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

＜整備と長期保管＞

* 日常のお手入れは＜運転＞の⑤使用後のお手入れと保管をご覧ください。
整備に関してのご不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

①エアクリーナ

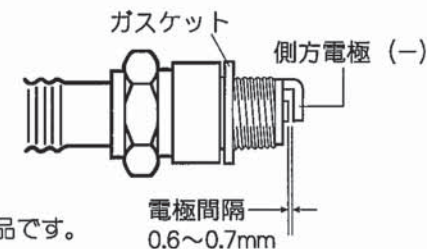
エアクリーナ内のスポンジが汚れていると吸気が不安定となり、エンジンの性能が十分に発揮されません。
時々エアクリーナを外しスポンジをガソリンまたは洗油で洗浄し、固く絞ってから取り付けてください。



②スパークプラグ

50時間の運転を目安にスパークプラグの点検清掃を行ってください。ワイヤブラシ等でカーボン堆積物を除去し、電極間隔を0.6～0.7mmに調整します。著しい汚れ、欠損がある場合はスパークプラグを新品に交換してください。

指定スパークプラグはNGK BM7Aもしくは相当品です。



③配管

⚠注意

- ・タンク、ホース、接続部分にヒビ、割れ、漏れがないか確認します。異常がある場合は速やかに交換してください。

④ポンプ内部のシール類

2年の使用を目安にポンプ内部のシール類の交換をお勧めいたします。シール類の交換についてはお買い求めの販売店にご相談ください。
(補修パーツとしてポンプパッキンセットが用意されています。)

⑥長期保管

長期間（約60日以上）に渡って本機を使用しないときは、次の事項を実施してください。

重要

- ・薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転してポンプやホースを洗浄してください。
- ・冬期間の凍結防止のため余水ホースと接続ホースをポンプから外して、エンジンを運転し完全に水抜きを行ってください。この時、必要以上（30秒以上）にポンプの空運転を行わないようにしてください。保管時は上記のホース、吸水口プラグは外しておいてください。
- ・燃料タンクの残留燃料を完全に抜き取ります。燃料タンクを空にした後、ブライミングポンプを数回押してキャブレタ内の燃料も抜いてください。
- ・スパークプラグを外し、スパークプラグ孔から4～5滴のエンジンオイルをシリンダに流し込みます。スパークプラグを付けリコイルスタータを2～3度引いて、オイルをシリンダ内に行き渡らせます。
- ・プラスチック部品は直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下する場合があります。また、注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので保管には充分注意してください。

⚠注意

- ・本体、エンジン、ポンプの外部を洗浄し、充分に乾燥させてからカバー等を掛け屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

＜故障と対策＞

①ポンプ

現 象	原 因	対 策
吸水しない	タンクに薬液がない	補給する
	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
	ポンプ内部のシール類が摩耗または損傷	※
	吸水ホースの詰まり	ホースを外し、洗浄する
圧力が上がらない または安定しない	ポンプの回転数が低い	エンジンの回転数を上げる
	遠心クラッチのスリップ	※
	調圧弁の詰まり、または摩耗、傷	※
	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
噴霧状態が悪い	ポンプ内部のシール類が摩耗または損傷	※
	圧力が上がらない	前述参照
	噴板穴の摩耗	新品に交換する
	噴口が不適切	ポンプ性能に合った噴口を使用する
液漏れ	ポンプ内部のシール類が摩耗または損傷	※

ポンプ内部のシール類に関しては補修パーツ（ポンプパッキンセット）が用意されています。お買い求めの販売店にご相談ください。

②エンジン始動不能、または始動困難

現 象	原 因	対 策
キャブレタまでガソリンが来ていない	燃料タンクにガソリンがない	給油する
	ブライミングしていない	ブライミングポンプを4～5回押す
	燃料チューブの詰まり	清掃、曲がりを矯正する
	燃料タンクキャップの通気穴の詰まり	清掃する
スパークプラグに火花が飛ばない	スパークプラグの不良	新品と交換する
	スパークプラグが汚れている	ワイヤブラシ等で清掃する
	スパークプラグの電極間隔が不適	0.6～0.7mmに調整する
	スパークプラグキャップ不良、またはスパークプラグコード断線	新品と交換する
	点火装置不良	※
爆発の兆候がない	チョークの開きすぎ	チョークを閉じて始動する
	キャブレタの詰まり、または調整不良	※
スパークプラグが濡れている	チョークの閉じ過ぎ	スパークプラグを乾燥させ、チョーク全開で再始動する
その他	キャブレタのオーバーフロー	※
	マフラの詰まり	清掃、または交換をする
	燃料、オイルの不適切	規定の燃料、オイルを使用する

③エンジンの回転不調、または出力不足

現 象	原 因	対 策
エンジンが異常に加熱する	燃料不適切	規定の燃料を使用する
	冷却不足	冷却風通路、シリンダフィンを清掃する
	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	燃焼室にカーボンが堆積している	※
スパークプラグに飛ぶ火花が弱い	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
吸、排気系の不具合	エアクリーナが汚れている	清掃する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	マフラの詰まり	※

④エンジン運転中停止する

現 象	原 因	対 策
運転中、急停止する	ピストンの焼き付き	※
	スパークプラグの短絡	スパークプラグを清掃、電極間隔の調整をする
エンジン回転が次第に下がり、やがて停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	燃料内異物混入	新しい燃料と交換する
エンジン回転が急激に上がり停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する

⑤エンジン停止が困難

現 象	原 因	対 策
エンジンストップスイッチをOFFにしてもエンジンが停止しない	エンジンストップスイッチのアース不良	配線の点検、交換をする
	スパークプラグ先端部の赤熱	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	ディーゼリング	※

※印の不具合対策に関してはお買い求めの販売店にご相談ください。

その他、不明な点は販売店にご相談ください。